

令和 4 年 7 月 6 日

(学生団体) 福島大学災害ボランティアセンターと 楢葉町地域学校協働センターとの連携・協働に関する協定締結

(学生団体) 福島大学災害ボランティアセンター(以下、「災ボラ」という)は、東日本大震災以降被災者・被災地支援、子どもたちの未来を育む活動等多岐にわたる活動を展開しています。この度、楢葉町教育委員会からの相談を受け、標記協定を結ぶこととなりました。協定に基づき具体的な活動を実現化していくプログラム協定に性格づけられるものです。大学機構組織とではなく、学生主体の団体との協定締結は珍しいものにとらえられると思います。

平成 28 年、避難指示解除となって以来、楢葉町では教育環境の整備に取り組みられてきたところだと思います。その中で楢葉町は「学校を核とした地域づくり」というコミュニティスクール構想の象徴として、今年度 4 月に「楢葉町地域学校協働センター」を開所しました(旧楢葉南小学校)。昨年度、その経過の中で教育委員会からある相談を受けました。町内には(子どもよりも)大学生世代が極端に少なく、児童・生徒たちが成長するうえでのロールモデルになれないだろうかというものでした。「子どもたちの未来を育む」を一つの理念としてきた災ボラとして、昨年度は学習支援の「てらこや活動」や「野外体験 1 泊キャンプ」をプレ的に行いました。そして互いの資源を活用した協働化をはかる狙いで、この度のプログラム協定を結ぶこととしました。

そのプログラムは、「ならはっ子 おとなへの階段プロジェクト」と名付けました。「ならはっ子ロールモデル活動」「ならはっ子未来の道しるべ活動」「ならはっ子自分の力再発見活動」「せっかくならはっ子活動」など 7 つの柱を設けています。

令和 4 年 7 月 9 日(土)午後 1 時から、楢葉町地域学校協働センターにおいて子どもたちを前に協定締結お披露目式を行います。さらに、子どもたちと災ボラの学生たちとの「お約束ごと協定(仮名)」も行う予定です。

その後にはまずは、食農学類のカプトムシプロジェクトの学生たちによるかぶと虫の贈呈と「育て方・土の役割子ども向けレクチャー」を行います(卵は産まれるかな?)。次に行政政策学類の BBS サークルの学生たちも加えいつもの災ボラメンバーとの時間を過ごします。

この他、この協定によって、「学校運営協議会こども地域活動部会」に災ボラ学生代表が参加することになります。また、楢葉町地域学校協働センター内に

災ボラとのコワーキングキッズスペース(共創空間)が設けられることになり、
どのような空間にしようかと今子どもたちと話し合っているところです。

この活動では、福島大学地域未来デザインセンターの相双地域支援サテライトも後方支援をいたします。

(予告)令和4年8月6日(土)には、福島大学リトルオープンキャンパスツアーを実施する予定です。

(別紙資料有り)

(お問い合わせ先)
行政政策学類・教授
(福島大学災害ボランティアセンター顧問) 鈴木 典夫
電 話：024-548-8286
メール：norio@ads.fukushima-u.ac.jp

ならはっ子 「おとなへの階段プロジェクト」

は今年度実施目標の活動です

1. ならはっ子ロールモデル活動

ならはの小中学生と大学生ならではの日常のふれあいの機会としていきます

- ・夏季休暇など長期休暇中の季節学童教室でのプログラム企画参加
- ・災ボラ企画、季節の子どもの集い
- ・夏祭り、芋煮、クリスマス、年越しなど、大学生が考える集い型企画。準備や役割分担はならはっ子の手も借りるかも。
- ・子ども社会体験会（遠足ベース）
- ・不登校生徒（主に中学生）へのメンタルフレンド

2. ならはっ子未来の道しるべ活動

“We make to your hope” つきそい活動

普段からやってみたいと思っていること、思っているけど自分一人では難しいこと、親と一緒にだとしにくいこと、将来の自分の夢の実現の一歩にしたいこと、あればお兄さん・お姉さんがプロデュースして付き合うよ

例) ○○の買い物を一人でしてみたい。○○見学してみたい。○○一人で日帰り旅行してみたい。○○してる人に会ってみたい。

3. ならはっ子自分の力再発見活動

- ・野外活動体験：デイキャンプ。災害に役立つ生活体験
- ・ならはっ子主催イベントの企画づくり
逆に大学生が準備のお手伝いをして、大学生がサポートします。何がしたいか、できるのかワークショップ。

4. ならはっ子ふるさとプライド活動

- ・ならは発見探検隊（引率型行事）： 木戸ダム・天神みさき・木戸川の築場とかのハイキング
- ・ならは、未来の創造まちづくり
例) ならはっ子ならではのまち紹介マップ（観光マップ）づくり

5. せっかくならはっ子活動

- ・福島大学リトルオープンキャンパスツアー（大学へ遠足！）：大学見せちゃいます。

6. 災ボラ活動、まるごとならはっ子

- ・災ボラがやってる活動・プロジェクトに、ならはっ子まるごと引き受けちゃいます
檜葉町地域学校協働センターから近隣町村にも口添えいただけるかも

7. もっとお近づき活動

- ・教育委員会、地域学校協働センター、小学校行事のお手伝い

地域学校協働センター内に災ボラとのコワーキングキッズスペースの設置

食農

カブトムシプロジェクト



ープロジェクトの始まりー

- ・農林サークルでお世話になっている農家さんがつくる堆肥の中で、たくさんの幼虫が生まれた
- ・「子どもたちに人気のカブトムシを、ほしい子にあげたい！」という農家さんの思いに共感・準備を開始
- ・カブトムシが好きな学生が集まり、農家さん、先生方と活動中

ープロジェクトの目標ー

1. 子どもたちに、カブトムシと関わってもらおう！
 - ・楽しんでもらう
 - ・生き物との関わりからの学び
2. みんなが「環境」を考えるきっかけになる！
 - ・カブトムシが生まれた堆肥は、農家さんが環境を考えてつくった自然に近いもの
 - ・カブトムシを「環境に配慮した農業のシンボル」として、みんなが環境について考えるきっかけに

ーイベント（7/9）ー

災害ボランティアサークルが、楢葉町地域学校協働センターと連携して行う、学童プログラムの1つに参加

当日の7/9（土）は、災害ボランティアサークル・BBS会とともに、小学生と交流

カブトムシプロジェクトチームとしては、「成虫のプレゼント」・「カブトムシクイズ」を行う予定

